

SIG テーマ名	リスタートアップのためのテスト ～ 顧客を知り新しい価値を提供するためのテストについて語ろう	SIG オーナー	加藤 匡邦 (かとう まさくに)
SIG オーナー プロフィール	エアーズ株式会社 代表取締役社長 MARC(モバイル/アジャイル/Ruby/クラウド)をテーマに、ウェブアプリケーションの受託開発を請け負う傍ら、自社サービスのリリースで試行錯誤を繰り返す日々です。 社外では、浜松の Ruby 開発者のコミュニティ「Hamamatsu.rb」や、チームで協力して1日で何かを作るイベント「浜松ハッカソン(ハマッカソン)」のメンバーとして、立ち上げや運営に携わっています。		

対象者

- ・ ソフトウェア開発での起業に興味のある方
- ・ 新分野での事業開発や開発プロジェクトの立ち上げに関心のある方
- ・ ウェブサービスやモバイルアプリの分野で新しいモノづくりに挑戦してみたい方

こんな話題でお話が出来れば

- ・ リンスタートアップって何だろう？
- ・ 顧客開発のためにテストをどのように活用するか？
- ・ 顧客や要求が不確実な中でどのようなテストをおこなうべきか？
- ・ 時間や予算が限られる中で必要な機能や品質をどのように定義するか？

SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

クラウドの普及やアプリケーションマーケットの登場によって、ウェブサービスやモバイルアプリを中心に、ソフトウェア分野でのスタートアップ(起業や新規事業による新しい製品やサービスの開発)が、従来に比べて短期間・低リスクでおこなえるようになってきました。

一方、これらのスタートアップでは極端な不確実性のもとに製品の開発をすすめなければなりません。最大の課題が、その顧客でさえも仮説であるということで、リスタートアップでは「顧客開発」によって得た「顧客に関する検証された知識」をもとに、すすむべき方向を転換していくこととなります。

顧客に関する知識を検証するためのテスト、方向を転換していくために必要なテストなど、リスタートアップに役立つテストについて、皆さんと一緒に考えてみたいです。

最後に

JaSST 東海では、ウェブ開発やモバイル開発に関する内容が少ないので、ということでお声がけいただきましたが、リスタートアップというテーマはそれらに限定されるものではありません。幅広い分野の方のご参加をお待ちしています。

私自身は、アジャイル開発の信奉者としてテスト駆動開発なども実践していますが、テストエンジニアリングについてはあまり詳しくないので、詳しい方からのツッコミにも期待しています。

SIG テーマ名	トラブルの再発防止をどうしていますか？ ～N社の「開発 KYT」を例に各社の取り組みについて語ろう～	SIG オーナー	良知 敦 (らち あつし)
SIG オーナー プロフィール	所属: NECアクセステクニカ株式会社 開発本部 ソフトウェア開発部 部内の共通グループに所属し、SEPGの仕事をやっています。 TEF 東海メトリクス勉強会、東海プロセス研究会などのコミュニティ活動を楽しんでいます。 また、昨年度は日科技連の SQiP 研究会で修行を積んできました。		

対象者

- ・ 「トラブルの再発防止を、もっと良くしたい」と思っているあなた
- ・ 「うちの会社ではこんな風に再発防止を図っているぜ」と語っていただけるあなた
- ・ 「 “ ” こんな工夫をしているよ」とお話ししていただけるあなた
- ・ 「みんなトラブルの再発防止って、どうやっているんだろう」と興味のあるあなた

こんな話題でお話が出来れば

交通の KYT ってどんなものか？

これを応用した、開発の KYT ってどんなものか？

実施するにあたっての工夫をお話したいと思っています。

また、再発防止したいお題をご提供いただければ幸いです。

実は東海プロセス研究会にてヤマハの方に教えていただき、弊社でも7月から部内展開したばかりです。

現在、実施率 約8割強という高い数字を維持しており、よい感触を得ております。

SIG オーナーの問題意識（テーマ選定の理由）

みなさんの職場では、

「過去に失敗した事例と似たような失敗を繰り返してしまった」とか、

「失敗の経験が若手や他グループに伝わっていない」

などという 苦い経験 はないでしょうか？

誰も、失敗したくて失敗する人はいません。

でも、忘れたところに、呼んでもいないのに、

ヒョッコリ顔を出す類似トラブル(≒バグやプロセスなど)。

そんないやなトラブルの再発防止のために、だれでも取掛かりやすい、

“交通 KYT(危険・予知・トレーニング)”の手法を開発の現場に適用しました。

最後に

この手法は、「非常に手軽で、全員参加で、現場に負担をかけずに」実施することができます。

皆さんの職場での改善の「お役に立てば」と思い、ご紹介させていただきます。

そして、皆さんからも再発防止のよいアイデアいただき、共有できればと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

SIG テーマ名	テスト工程の開発文書品質	SIG オーナー	山本雅基(やまもと まさき), 森川聡久(もりかわ あきひさ)
SIG オーナー プロフィール	<ul style="list-style-type: none"> ●山本雅基 ASDoQ 代表幹事／名古屋大学大学院情報科学研究科附属組込みシステム研究センター・ディレクタ／特任准教授. ●森川聡久 ASDoQ 運営委員／株式会社ヴィッツ 組込制御開発部 機能安全開発室／室長 ●ASDoQ(アスドック) システム開発文書品質研究会. (1)文書品質の提案, (2)計測技術の研究, (3)文書品質の普及を行う任意団体. 入会者募集中. http://asdoq.jp/ 		

対象者

- ・ テスト仕様書やテスト報告書を、書かれている方／読まれている方
- ・ 何をどうやって書けばよいかを、悩んでいる方

こんな話題でお話が出来れば

- ・ あなたの会社では、どのようなテスト仕様書／報告書が書かれていますか？
- ・ テスト仕様書／報告書で、どのような工夫をされましたか？
- ・ 問題があるならば、何を改善すればよいですか？
- ・ 文書品質のメトリクスには何があると思いますか？

SIG オーナーの問題意識（テーマ選定の理由）

2011年7月に、「システム開発文書品質研究会」を発足しました。通称は“ASDoQ”で、「アスドック」と読みます。ASDoQは、システム開発において作成する要求仕様書やアーキテクチャ設計書やテスト仕様書などの開発文書の品質を研究する任意団体です。

「開発文書の品質」という耳慣れない言葉をお聞きになった皆さまは、どのようにお感じになったでしょうか。「文書の品質とは?」、「国語の話でしょうか?」、「技術者の私には関係ないな」という感想をお持ちの方が多いのではないでしょうか。あるいは、「文書品質は初耳だが、プログラム品質なら分かる」、と少し踏み込んでお考えの方もいらっしゃると思います。

ASDoQ が関心を持つ「開発文書の品質」は、国語の話だけではありません。構造化やオブジェクト指向や形式手法などのソフトウェア技術や、ソフトウェア開発プロセスの各アクティビティに対する深い理解など、広範囲に及びます。私たちは、システム開発文書品質に対して、多面的に取り組みたいです。

ASDoQ を設立した目的は、(1)文書品質を提案し、(2)計測技術を求め、(3)改善し品質向上を目指す風土を醸成し、(4)文書品質技術の普及に努めることにあります。

本 SIG では、テスト工程において作成する開発文書を取り上げ、その文書品質を考察します。

最後に

日ごろからテスト工程に従事されている皆様との出会いを、楽しみにしています。

文書品質というと硬くなりがちですが、この SIG は、硬い話しは抜きにして、ざっくばらんに話しあいましょう。皆さん、来てね。

SIG テーマ名	テスト不具合管理 ～人・コミュニケーション・ツール～	SIG オーナー	角田 真吾 (かくた しんご)
SIG オーナー プロフィール	1997年、株式会社オーヂス総研入社、情報系システムのプリセールス、コンサルティング、システム開発・テスト、システム保守など、幅広く手がけています。 Ja SST 東海は初回(2009年)から実行委員として参画しています。		

対象者

下記のような声に共感できて、現状をなんとかしたいと思っている方

- 開発部隊 「こんなのバグじゃないでしょ。回答する時間が無駄～」
「同じバグをいろんな人があげるなよー。ちゃんと事前調整してよ。」
- テスト部隊 「不具合をあげたのに開発部隊に無視される。なんでー??。」
「なんでもかんでも仕様通り(バグにあらず)って言うなー。」
- 管理者 「不具合管理表を作ったんだけど、みんなのメンテが遅すぎて、
実体は聞いて回らないと分からないんだよね。。。」「過去の不具合は宝の山のはずなのにゴミの山に。。。」

こんな話題でお話が出来れば

- ・ あなたがテスト不具合管理で困っていること。人、コミュニケーション、ツール等。
- ・ 他の参加者の困り事で共感できること。
- ・ (あれば)他の参加者の困り事に対して、取り組んでいる工夫

SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

テスト不具合管理ですが、業務運用にあったツールを導入するだけで飛躍的に改善される場合もありますし、Excel 管理でもコミュニケーションを見直すだけでも大きな効果が出る場合もあります。また、なんと言っても、お互いの立場を理解するだけでも全然違います。自分は幸いにも開発部隊・テスト部隊・管理者とも経験してきたので、少しでも皆様のお役に立てればと思います。

最後に

お堅い話はしませんので、若手、中堅、ベテラン、開発者、テスト技術者、管理者、いろんな立場の方の参加を歓迎します！。参加される皆様がバラエティー豊かなほど奥行のあるお話ができると思います。

SIG テーマ名	テスト技術者のためのコミュニケーションワークショップ	SIG オーナー	加子 勝茂
SIG オーナープロフィール	某 IT 企業に勤務し、業務アプリケーション開発のプロジェクトマネージャーなどをやっています。 SIG テーマに関連する発表 プロジェクトマネジメント学会誌 コミュニケーションを刺激する7つの方法 http://ci.nii.ac.jp/nrid/9000006928278		

対象者

- ・ このままのコミュニケーションだと ちょっとマズイかも？ と感じている「あなた」

こんな話題でお話が出来れば

- ・ 説明っぽいことは、一切しません。複数のワークを実施することで、日頃のコミュニケーションを振り返り、改善する「アイデア・行動」を自分で導き出すことを目指します。
 - コミュニケーションの困難さを体感するグループワーク
お互いの思いを汲み取りあって、あるものを完成させる。
 - コミュニケーションは双方向を体感する全員参加のワーク
双方向コミュニケーションにより、あるものを完成させる。
 - コミュニケーションをよくするアイデアを出し合うグループワーク
 - 自分のコミュニケーションを試すペアワーク

SIG オーナーの問題意識（テーマ選定の理由）

みなさん、満足いくコミュニケーションができていますか？

私も、もちろん出来てません。キツパリ！

最後に

一緒に、「正しい」でなく、「(今より)うまいく(であろう)」コミュニケーションを模索しましょう！

SIG テーマ名	やろまいか！テスト設計コンテスト ～コンテストからはじまるテスト設計～	SIG オーナー	水野 昇幸(みずの のりゆき)
SIG オーナー プロフィール	<p>某電機メーカー勤務のシステムエンジニア。所属部門はソフトウェア設計課。組込みを含む大規模なシステムにおいて S/W システムの設計及びシステムテストを主に担当。要求とテストの双方に関わることが出来る立場から、改善を日々検討しています。</p> <p>外部コミュニティでは、ET ロボコン関西地区実行委員として活動。テストコミュニティやアジャイルコミュニティにも、多数出没します。コンテストやコミュニティなどの活動を通じて「楽しく皆で学び、自分も成長できる場」を目指して日々活動中です。</p> <p>JaSST' 11 Tokai において、テスト設計コンテストへ参加しております。さて、結果は…？</p>		

対象者

- ・ テスト設計に興味がある方(若手大歓迎！)
- ・ テスト設計を実際にテスト活動に取り込もうとしている方
- ・ テスト設計コンテストに興味がある方
- ・ テストと要求の関係を考えている方
- ・ 社内の勉強会やコンテストを通じた教育に興味がある方

こんな話題でお話が出来れば

“テスト設計コンテスト”という具体的な題材を使い、コンテスト内容やテスト設計方法について議論したいと考えています。テスト設計を行ったことのない初心者も大歓迎です！

- ・ テスト設計を取り入れてみたいけど、何処から始めるべきなの？
- ・ テスト設計が出来ると、どう違うの？
- ・ どのようにテスト設計を勉強すればよいか？実際に試して、何か思うことなど。
- ・ テスト設計コンテストって、どんなことをやっているの？どんなことを考えて設計しているの？教育に役立つ？

また、論点が少々違う部分にもなりますが、テスト設計に関連して以下についても議論できれば良いなと考えております。

- ・ テスト設計を良くすることと要求を良くすることの関連性

SIG オーナーの問題意識（テーマ選定の理由）

今回テスト設計コンテストに参加することで、テスト設計というものを実際に行ってみることで感じた点や疑問点について SIG に参加される皆様と共有してみたいと考えました。また、テスト設計において何らかの課題を持っている人と、課題や解決策について議論をしてみたいです。

テスト設計と要求の関連性という話題については、個人的な興味です^^。

最後に

SIG オーナーもテストの専門家ではありませんので、皆様と一緒に議論を行うことで知見を深めていこうと考えている次第です。気軽な雰囲気、少しでもお土産として持ち帰ることが出来る議論が出来れば幸いです。

よろしく願います！

SIG テーマ名	実践ふりかえりワークショップ	SIG オーナー	山本 博之(やまもと ひろゆき)
SIG オーナー プロフィール	<p>パッケージソフトの開発に従事するかたわら、名古屋アジャイルというユーザーグループのスタッフを務めています。名古屋アジャイル勉強会はアジャイルに関する情報共有と発信を目的としたグループで、アジャイル開発に関する読書会やワークショップを毎月開催しています。どなたでも参加できるオープンなグループです。</p> <p><名古屋アジャイル勉強会> http://blogs.yahoo.co.jp/nagoya_agile_study_group/</p>		

対象者

- ・ ソフトウェア開発、システム開発に携わる方
- ・ それ以外の方(どなたでも！)
- ・ 職場がいきいきとして働きがいのある場になれば、とお考えの方

こんな話題でお話が出来れば

- ・ アジャイル開発の手法のなかから、チームビルディングと改善のための有効な手法である「ふりかえり」を紹介します。
- ・ KPT(「けぷと」)法によるふりかえりを実際に体験します。
- ・ 参加者のみなさんの職場の現実を共有し、改善のためのヒントを得ます。
- ・ 参加者のみなさんが職場でふりかえりを行なうための手掛かりを得ます。

SIG オーナーの問題意識(テーマ選定の理由)

今日のソフトウェア開発・システム開発の現場では、コミュニケーションを活性化し、フィードバックに基づく改善を継続的に行っていくことが求められています。これはすなわち、開発プロセスがアジャイル方式でなかったとしても、アジャイル的であることが求められているということだと思います。だとすれば、そのためにアジャイルの手法を用いることはとても自然なことです。

アジャイルの数あるツールのなかから、このワークショップでは「ふりかえり」を取り上げます。ふりかえりを実際に行ない、参加者同士で経験や認識、感想、アイデアを共有してみます。それによってチームがどれだけエンパワーされるか、体験してみましょう。この体験から、実際に職場でもふりかえりを行えるようになっていただければと思います。また、これをきっかけに、アジャイルマインドを持っていろいろなチャレンジができるようになってもらえたらと思います。

最後に

JaSSTに参加されるみなさんは、それぞれが問題意識を持っておられると思います。私は、みなさんひとりひとりの経験と意識は本当に価値のあるものだと思っています。それをうまく共有して、新しいトライに結びつけることができたらどんなに素晴らしいでしょう。それはそんなに難しいことではなく、きっかけと場さえあればできることだと思っています。

私はいつもそんな思いで名古屋アジャイル勉強会のワークショップを行っていますし、それを実感しています。今回はJaSSTに出張してのワークショップで、みなさんの思いに触れることができるのが、とても楽しみです。

このワークショップは特に前提知識は必要ありません。また、ここで話しあったことは外部には出しません。気軽に、楽しんで参加いただけたらと思います。

SIG テーマ名	テストとレビュー(欠陥検出)の役割分担	SIG オーナー	森崎 修司(もりさき しゅうじ)
SIG オーナー プロフィール	<ul style="list-style-type: none"> ・所属: 静岡大学 情報学部 助教、奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 非常勤講師 ・連載記事 <ul style="list-style-type: none"> - @IT 連載「ソフトウェアレビュー入門」(1~7回) 2009年~ - 日経 SYSTEMS 連載 2011/4~2011/9 月号「間違いだらけのドキュメントレビュー」 ・論文(50件程度)、招待講演(100件程度: 公開できるもののみ) 文献リスト等は http://lab.inf.shizuoka.ac.jp/morisaki/downloads.html へ ・社会貢献 <ul style="list-style-type: none"> - 海外(Working Group of International Research Cooperation on Software Inspections Co-chair, The ACM / IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering (ESEM 2009, 2010, 2011) Program Committee をはじめ 6 会議の委員) - 国内(情報処理学会論文誌編集委員、ソフトウェアテストシンポジウム 2010, 2011 共同実行委員長、ソフトウェア品質シンポジウム 2010, 2011 副委員長をはじめとして、10 会議、ワーキンググループの委員) 		

対象者

- ・ テスト、レビューに携わっているエンジニアの方、または、いずれかに携わっていてもう片方に携わろうとしている方

こんな話題でお話が出来れば

- ・ レビューで検出できていれば・・・という不具合をよく目にするテストの前倒しだけでレビューが定着するか？
- ・ テストで見つけるべき欠陥とレビューで見つけるべき欠陥を明らかにし、欠陥修正を効率化する。
- ・ レビューで検出した欠陥が形式的なものばかりで魂がはいっていない。なぜか。

SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

ソフトウェアの規模増大に伴って網羅的なレビューが難しくなりつつあります。また、レビューは自由度の高い品質向上活動であるため、早期検出のメリットが小さい欠陥を工数をかけて検出してしまったり、テストとレビューを総合的に考えた欠陥検出ができていなかったりします。

最後に

形骸化しがちなレビューを改善するきっかけにいただければ幸いです。

SIG テーマ名	ソフトウェアテストと人間の感情	SIG オーナー	酒井 卓也(さかい たくや)
SIG オーナー プロフィール	<p>1967年生まれ。</p> <p>北海道工業大学応用電子科卒。</p> <p>某重電メーカーに就職。ソフトウェア開発に従事する。</p> <p>平成20年 産業カウンセラー資格取得</p> <p>現在、社内の環境関係を取りまとめる業務に従事。</p> <p>SWEST(組込みシステム技術に関するサマークンショップ)で、人間系のテーマをいくつかお話させていただいています。</p>		

対象者

- ・ ソフトウェアテストの人間の側面に興味がある。
- ・ 仕事にちょっと疲れていると思っている。
- ・ 建設的なコミュニケーションの取り方について興味がある。

こんな話題でお話が出来れば

- ・ 人間の対話パターンについて。
- ・ 事実を受け入れやすくする聞き方、伝え方について。
- ・ ソフトウェアテストでありがちな感情的なすれ違いへの対応について。

SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

人間には間違いを素直に受け入れる人と、受け入れるのが苦手な人がいたりします。

事実は動かさない。それが解っていても、人間の心の中には、割り切れない色々な感情が湧いています。その感情に気がついていない人もいれば、まったく気がつかない(気がつかないふりをする)人もいます。

客観的な事実にもとづき、事実を伝えて間違いを訂正する。また、再発しない対策をとる。それは、悪いことではなく、大切なことです。

でも、そんな「冷たい方程式」のような対応だけで良いのでしょうか？

人間の感情の問題は解決できないから、扱わない。それは正しいです。しかし、何かしら人間の感情がソフトウェアテストの品質に影響を及ぼさないわけがないとも思っています。

人間の感情がどのようにソフトウェアテストに影響を及ぼすか、あえて扱ってみたい。今までエンジニアが焦点をあてていなかった部分を、皆さんと考えてみたいです。

最後に

色々な、技法手法を試してみたけれど、思ったような成果がでない。そんな想いを持っている方々に、なにか気づきを得ていただければ幸いです。

SIG テーマ名	もっと、触ってテストの世界 ～チュートリアルふりかえり～	SIG オーナー	名野 響(なの ひびき) 森 貴彦(もり たかひこ)
SIG オーナー プロフィール	<p>名野 響 普段のお仕事は自動車関連のソフトウェア開発。ここ2, 3年ソフトウェアテストに興味を持ち、絶賛お勉強中。今年の1月に開催された JaSST' 11 Tokyo テスト設計コンテストにチーム「めいしゅ館」として参加し、大賞を受賞(びっくりしました...)。派生開発プロセス XDDP にも挑戦中。</p> <p>森 貴彦 某自動車関連会社勤務のソフトウェアエンジニア。所属部門はプロセス改善部隊。組込み開発におけるプロセス改善を行いながら、社内のテスト初級者向け教育も実践中。JaSST 東海実行委員 3 年目ということで、チュートリアルに初挑戦。みなさんとたのしく議論して、学びたいです。</p>		

対象者

- ・ チュートリアル「集まれテスト1年生」に参加された方
- ・ テスト技法、テスト設計に興味がある方(若手大歓迎!)
- ・ テスト技法、テスト設計を実際にテスト活動に取り込もうとしている方
- ・ テスト設計コンテストに興味がある方

こんな話題でお話が出来れば

- ・ チュートリアルのふりかえり
チュートリアルに参加して得られたことをふりかえり(KPTを利用)、みんなで知見を共有しよう。
KPTはKeep(継続)、Problem(問題点)、Try(挑戦)の3つの視点で活動をふりかえる方法です。
- ・ 更なる疑問点の深堀
 - 実際の開発現場では、テスト技法、テスト設計って、どう使ったらいいの?
 - テストの初心者は、何を学べばいいの?

SIG オーナーの問題意識(テーマ選定の理由)

チュートリアルや勉強会に参加しても、その場限りで満足していることはありませんか? 私たちはよくあります(笑)

そこで、今回はチュートリアルの”ふりかえり”を行うことにしました。“ふりかえり”は反省会とは異なります。反省点だけを洗い出すのではなく、良い点、チャレンジしたい点も考え、建設的な議論を行うことができます。

チュートリアルで得られた知見や問題点を参加者の間で共有し、次の一歩を踏み出すために、どのように行動すればいいのか、みなさんと考えて行けたら嬉しいです。

また、チュートリアルで学んだことを実際の現場でそのまま使おうとすると、時間的な問題や、テスト対象物の違いなどが原因で、うまく行かないかもしれません。どうやったらテスト技法やテスト設計を現場に適用できるか?といったことも議論してみたいです。

最後に

我々も、テストに関して、まだまだ勉強中です。

みなさんからの質問や疑問にお答えしながら、テスト技法、テスト設計と一緒に学んでいきたいと思ひます。